

K師の重賞本命と見解『金鯨賞・フィリーズR』

金鯨賞

<最終見解>

本命はポタジェ。

今年の金鯨賞は軽い馬場でスピードを問われる馬場。

ポタジェはディープインパクトに米国型の持続力を補われた配合。
根幹距離のスピード持続力勝負に優れた馬。

距離延長よりも短縮。非根幹も減速しやすい馬。

前走の AJCC は小回りコースの非根幹距離で距離延長と最悪の条件。

今回は大幅なパフォーマンスの上昇が見込めます。

前々走は距離延長に加えて、
ハイレベルメンバー相手に勝ちに行く競馬で失速。

今回のメンバーと枠順、臨戦過程ならば、
サンレイポケットに先着できる可能性の方が高いと見立てます。

レイパレはパワー型で、直線が長いコースでの
スピード持続勝負はポタジェに劣るのではないのでしょうか。

ジャックドールもスピードの持続性に優れた
ファピアノ系の傑作馬。この舞台は向きます。

相手妙味には 10、13 よりも内で脚を溜める
王道血統のソフトフルート、シャドウディーヴァの食い込みに期待します。

フィリーズレビュー

ディープ系。もしくは父も母父も欧州型の相性がいいレース。

2018年8番人気1着リバティハイツ、
2019年1着プールヴィル、2020年12番人気3着ナイントゥファイブ、
2021年8番人気1着シゲルピンクルビーは父と母父がどちらも欧州型。

昨年の当レースは11番人気3着の
ミニーアイルが父ディープ系のミッキーアイル産駒。

父ディープ系は昨年以降の当コース重賞でも
スワンS、ファンタジーSで1、2着。

今の馬場も先週のチューリップ賞で
ミッキーアイル産駒のピンハイが大穴で2着。

距離短縮も有利。
特に前走は芝1600mで5着以内か阪神JFを使っていた馬に注目。

昨年はシゲルピンクルビーが8番人気1着、ヨカヨカが2着。
2020年は前走で1600mを使っていた馬が1から3着を独占。
2019年12番人気1着ノーワンも前走は1600m。

本命はサブライムアンセム。

父も母父も欧州型。
欧州型の中でも特に当レースに
相性の良いキングマンボとロベルト系の配合馬。

近親には2、3歳重賞で実績を残した馬も多数。
ここでも通用の素質を秘めています。
有利な戦歴にも該当。

ナムラクレア、マイシンフォニーも
戦歴傾向にも該当するディープ系。